

[46] モザンビーク

主要経済指標等 (2014年)

●人口	2,722万人
●GNI 総額	167.49億ドル
●GNI 一人あたり	620ドル
●経済成長率	7.4%
●失業率 (2013年)	8.3%
●対外債務残高 (2013年)	68.90億ドル
●援助受取総額 (支出純額) (2013年)	23.14億ドル
●DAC分類	後発開発途上国
●世界銀行分類	低所得国

出典) WDI (世界銀行) 等。詳細は解説参照

表-1 我が国の対モザンビーク援助形態別実績 (年度別)

年度	(単位: 億円)		
	円借款	無償資金協力	技術協力
2010年度	-	12.76	9.13(9.10)
2011年度	-	15.89	26.05(25.81)
2012年度	78.89	50.94	22.80(22.11)
2013年度	240.42	11.31	28.25(27.44)
2014年度	-	43.72	31.79
累計	411.91	986.48	217.45(212.60)

※脚注参照

ミレニアム開発目標 (MDGs) 代表的な指標

	過去データ	最新データ
●目標1: 1日1.25ドル未満で生活する人々の割合	80.6%(1996)	60.7%(2009)
●目標2: 初等教育における純就学率	44.0%(1990)	87.6%(2013)
●目標3: 初等教育における男子生徒に対する女子生徒の比率 (男子を1とした時の女子の人数)	0.76人(1990)	0.91人(2013)
●目標4: 5歳未満児の死亡数 (1,000人あたり)	237.0人(1990)	87.2人(2013)
●目標5: 妊産婦の死亡数 (出生児10万人あたり)	1,300人(1990)	480人(2013)
●目標6: 15~49歳のHIV感染率 (100人あたりの年間新規感染者数の推定値)	1.81%(2001)	0.98%(2013)
●目標7: 改良飲料水源を継続して利用できる人口の割合	35.1%(1990)	51.1%(2015)

出典) Millennium Development Indicators (The Official United Nations Site for the MDG Indicators)

主要ドナーの対モザンビーク経済協力実績 (2013年)

(支出総額ベース、単位: 百万ドル)

1位 米国	543.68	2位 日本	150.07	3位 スウェーデン	136.57	4位 英国	124.84	5位 カナダ	107.74
--------------	--------	--------------	--------	------------------	--------	--------------	--------	---------------	--------

出典) OECD/DAC

モザンビークに対する我が国ODA概要

1. 概要

モザンビークに対する経済協力は、1975年の災害緊急援助に始まり、1992年の内戦終結後、同国の経済発展を促進する観点から無償資金協力及び技術協力を中心に援助を実施してきた。2006年には同国に対して初めての円借款を供与し、その後は、無償資金協力と技術協力、円借款を効果的に組み合わせて積極的な支援を実施し、モザンビークの社会経済開発に大きく寄与している。

2. 意義

モザンビークは、1992年の和平協定締結以降、安定した政情の下、国家再建・経済社会開発を着実に進展させている。同国は石炭・天然ガス等を始めとする鉱物資源が豊富であり、経済成長の潜在性は非常に高い一方で、一人あたりGNIは低い。モザンビークに対する支援は、同国が抱える開発課題の解決を促すほか、日・モザンビーク関係全般の強化を通じて近年活発化している資源関連ビジネス等における我が国企業の活動環境の整備・改善にもつながることから意義が大きい。

3. 基本方針

2011年に採択された貧困削減活動計画 (PARP) を踏まえ、同国が高い潜在力を発揮して持続可能な経済成長を実現しつつ、貧困削減が達成できるよう、以下の分野への支援を重点的に展開していく。

4. 重点分野

- (1) 回廊開発を含む地域経済活性化: 地方部の開発の遅れが顕著なモザンビークにおいて、地域経済の活性化は重要であり、我が国は港湾から内陸国へと続くインフラ整備といった回廊開発を積極的に支援する。とりわけナカラ港から伸びるナカラ回廊は、同国の鉱物・エネルギー資源の輸送路として、さらに、農業開発の潜在性が高い地域として重要である。また、南アフリカに続くマプト回廊については経済活動促進のため、交通網や発電所の整備を中心に支援を行う。
- (2) 人間開発: 世界で最下位層に低迷する人間開発指数の改善及びMDGs達成を目指し、保健サービス及び基礎教育へのアクセス改善のための支援、安全な水へのアクセス拡充のための支援を行う。
- (3) 防災・気候変動対策: 同国はサイクロンや洪水等の自然災害が多発し、特に貧困層への影響が大きく、リスクへの対応能力は脆弱である。このため、気象観測システムの構築を支援し、豊富な森林資源の管理能力強化を行う。また、都市部の廃棄物処理能力向上を始めとした環境対策支援を行う。

※注) 1. 年度の区分及び金額は原則、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力は予算年度の経費実績ベースによる。

2. 2010年~2013年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2014年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。
()内はJICAが実施している技術協力の実績及び累計となっている。

表-2 我が国の年度別・形態別実績詳細 (表-1 の詳細)

(単位: 億円)

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2012年度	78.89 億円 (78.89) ・ナカラ港開発計画 (I)	50.94 億円 ・地雷除去計画 (UNDP連携) (1.64) ・ナンプラ州中学校改善計画 (10.63) ・イレークアンバ間道路橋梁整備計画 (詳細設計) (1.32) ・ナカラ港緊急改修計画 (26.66) ・ナンプラ州モナボ初等教員養成校建設計画 (10.24) ・草の根・人間の安全保障無償(5件) (0.45)	・一村一品運動を通じた地域産業振興プロジェクト [13.01~17.01] ・マプト市における持続可能な3R活動推進プロジェクト [13.02~17.02] ・ニアッサ州持続的給水・衛生改善プロジェクト [13.03~17.02]
2013年度	240.42 億円 ・マンディンバリシंगा間道路改善計画 (67.73) ・マプト・ガス複合式火力発電所整備計画 (172.69)	11.31 億円 ・イレークアンバ間道路橋梁整備計画 (国債 1/4) (4.58) ・ナカラ港緊急改修計画 (追加分) (5.34) ・マプト市医療従事者養成学校建設計画 (詳細設計) (0.84) ・草の根・人間の安全保障無償(6件) (0.55)	・ナカラ回廊農業開発におけるコミュニティレベル開発モデル策定プロジェクト [13.05~19.05]
2014年度	なし	43.72 億円 ・イレークアンバ間道路橋梁整備計画 (国債 2/4) (18.17) ・マプト市医療従事者養成学校建設計画 (18.46) ・食糧援助(1件) (6.20) ・草の根・人間の安全保障無償(7件) (0.89)	・鉱物資源分野における能力強化プロジェクト [14.09~19.09] ・気象観測及び予警報能力向上プロジェクト [14.12~17.07]
2014年度 までの累計	411.91 億円	986.48 億円	217.45 億円(212.60 億円) 研修員受入 15,850 人 専門家派遣 902 人

注) 1. 表-1 注釈同様

2. 技術協力においては、2012年度以降に開始され2014年4月の時点で継続中の技術協力プロジェクト案件のみを掲載している。案件の [] 内は、協力期間。

モザンビーク

表-3 我が国の対モザンビーク援助形態別実績 (OECD/DAC 報告基準)

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	有償資金協力	無償資金協力	技術協力	合計
2010年	0.38	48.95 (3.85)	13.52	62.85
2011年	17.21	14.20	17.35	48.77
2012年	14.55	24.18 (2.05)	31.57	70.30
2013年	-30.92	93.92	35.37	98.37
2014年	34.11	25.79 (1.00)	25.37	85.28
累計	68.83	969.50 (22.22)	216.87	1,255.21

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 国際機関を通じた贈与については、2006年より、拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することとしている。また、OECD/DAC事務局の指摘に基づき、2011年には無償資金協力を計上する国際機関を通じた贈与の範囲を拡大した。()内は、国際機関を通じた贈与の実績(内数)。
 2. 有償資金協力及び無償資金協力は、これまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(有償資金協力については、モザンビーク側の返済金額を差し引いた金額)。
 3. 有償資金協力の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。
 4. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。

表-4 主要ドナーの対モザンビーク経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2009年	米国 255.61	ドイツ 118.32	デンマーク 104.54	オランダ 99.31	スウェーデン 98.86	60.67	1,305.90
2010年	米国 277.91	ポルトガル 116.00	英国 104.42	デンマーク 87.56	スウェーデン 84.54	62.86	1,395.88
2011年	米国 397.90	ポルトガル 224.23	英国 191.40	カナダ 129.81	デンマーク 115.36	48.77	1,740.74
2012年	米国 435.49	英国 134.59	カナダ 123.43	スウェーデン 114.71	ポルトガル 87.17	70.30	1,512.58
2013年	米国 543.68	日本 150.07	スウェーデン 136.57	英国 124.84	カナダ 107.74	150.07	1,720.45

出典) OECD/DAC

表-5 国際機関の対モザンビーク経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2009年	IDA 214.84	EU Institutions 204.68	IMF-CTF 153.28	AfDF 76.77	UNICEF 16.31	72.10	737.98
2010年	EU Institutions 192.33	IDA 169.05	GFATM 77.46	AfDF 75.74	IMF-CTF 21.67	78.84	615.09
2011年	EU Institutions 162.75	IDA 103.40	AfDF 59.43	UNICEF 16.57	GFATM 13.34	57.91	413.40
2012年	IDA 233.42	EU Institutions 184.89	AfDF 75.02	GFATM 74.87	GAVI 19.37	68.44	656.01
2013年	IDA 379.72	EU Institutions 130.33	AfDF 70.51	GFATM 28.54	GAVI 27.82	73.71	710.63

出典) OECD/DAC

- 注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-6 実施済および実施中の開発計画調査型技術協力案件 (開発調査案件を含む) (開始年度が2010年度以降のもの)

案 件 名	協力期間
マプト都市圏都市交通網整備計画プロジェクト	12. 1~14. 3
ナカラ回廊経済開発戦略策定プロジェクト	12. 3~15. 9
REDD+モニタリングのための持続可能な森林資源情報プラットフォーム整備プロジェクト	13. 3~18. 3

出典) JICA

表-7 2014年度実施協力準備調査案件

案 件 名	協 力 期 間
尿素肥料工場整備事業準備調査 (PPP インフラ事業)	13. 6~14. 8
ナカラ回廊送電系統強化計画準備調査	14. 3~15. 1
ナカラ医療従事者養成学校建設計画準備調査	14. 7~15. 5
カーボデルガード州橋梁建設計画準備調査	15. 2~15.12
ナカラ回廊道路網改善事業準備調査	15. 2~16. 3
ナカラ回廊送電網強化事業準備調査	15. 3~15.11

出典) JICA

表-8 2014年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

案 件 名
ソファアラ州人道的地雷除去計画
ザンベジア州ニコアダラ郡小学校教室増設計画
ナンブラ州モザンビーク島・モスリル郡井戸建設及び修繕計画
マプト州ボアネ郡幼児教育施設整備計画
マプト州ボアネ郡農業機材整備計画
マプト州マプト市シャマンクローB地区小学校改装計画
カーボデルガード州キサング郡衛生環境改善計画

主なプロジェクト所在図 (2012年度—2014年度)

コモロ、マダガスカル、マラウイ、モザンビーク、モーリシャス

